

災害対策全国交流集会inみやぎ
第1分科会：被災者のいのちとくらしを守る

長期化する仮設住宅の対策

石巻・住まい連

(住まいと復興を考える会連絡協議会)

2012年10月7日被災者の組織として結成

代表委員(総務担当)

佐立 昭

災対連のみなさまへのメッセージ

全国災対連のみなさまには、泥かきから救援物資配布、炊き出し、慰問、助言などなど、長きにわたりご支援賜りましたことを深く感謝いたしております。

被災後5年近くになり被災地の様子は少しずつ変化はありますが、被災者の状態や気持ちには大きな変化があります。外からは見えにくいその様子を少しでもお伝えできればと、つたない報告をいたします。

今後の支援活動にお役にたつことを願って準備致しました。

復興のステージと被災者

	ステージ	主要課題	被災者
2011年3月～12月頃	第1期 被災直後と避難所生活	災害に対する備え 災害救助法・防災体制の整備強化	無防備の状態
2012年～2014年	第2期 当面生きていくための条件整備	①衣・食・住、健康の保障 ②家族単位のくらし ③隣近所の付き合い	・仮設住宅での支援を受け「絆」という連帯感 ・見なし仮設、自宅被災者への支援は手薄
2014年～2015年	第3期 人間の復興＝住まいの確保と地域社会の復活	①自宅補修・再建 ②復興住宅 ③民間賃貸住宅 ④その他	将来の住まいの確保など意識の違い・分化が始まる。仮設自治会も困難に直面
2015年	第4期 格差の是正と地域社会の復興	①仮設生活の維持 ②5000世帯の動向 ③地域の復興	・先きの見通しが持てない世帯の存在 ・仮設での共同生活に困難 ・地域社会の未復興

第1期 避難所生活

—災害に対する備えがほとんどなかった

主要テーマ	国・自治体	被災者	支援活動
災害に対する備え	<p>災害救助法発動</p> <ul style="list-style-type: none">・人命救助・避難所開設・全国から救援体制 <p>⇒災害救助法の見直しが必要。</p> <p>(避難所の開設、被災自治体の被災時の機能確保、仮設住宅の仕様、現金の支給、ほか)</p> <p>⇒防災体制の整備・構築</p> <p>(町づくり、避難計画、住民参加の避難訓練など)</p>	<ul style="list-style-type: none">・津波に対する備えはほとんどなし。ゆえに多数の犠牲者(特に旧石巻)。・避難所の条件は最悪。特に女性・子ども・障がい者・病弱者はここで命を落とす人も少なからず。・自宅、民間避難所、などは救援物資も届かず。・	<ul style="list-style-type: none">・全国からボランティアが駆けつける。被災者に大きな励まし。

第2期

当面生きていくための緊急課題

主要テーマ	国・自治体	被災者	支援
衣・食・住、健康の保障	支援金、義援金、食料、医師派遣など	・生活が可能レベルの保障を求める。	・炊き出しやバザー等
家族単位の暮らしの確保	・仮設住宅提供 ・見なし仮設 ・自宅修繕補助	・「人間らしい住まい」を求め、不備・欠陥に不満続出。	・自治体への働きかけ(県民センター・住まい連など)
地域生活の支え	・仮設自治会づくりへの支援 ・支えあい、見まわりなどの支援態勢	・お茶会や懇談会などが活発に開かれる。	「住い連」の活動。ボランティア団体の訪問。

第3期 人間の復興＝住まいと地域

主要テーマ	国・自治体	被災者	支援の課題
自宅(持ち家) 再建	集団移転 「可住地」の早期整備 区画整理 「白地地区」 ⇒地域に合った復興 事業を。	<ul style="list-style-type: none"> ・資金不足 ・家族内の合意の困難 ・高齢化による断念 ・元の地に再建したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・制度改善要求 の共同
復興住宅整備	必要戸数の確保 住宅の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・意向が定まらない ・家賃が高すぎる ・通院、買い物、ペット 共生など住宅の質と環 境整備 ・もとの地域に戻りたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・
民間賃貸住宅	借り上げ型公営住宅 家賃補助	<ul style="list-style-type: none"> ・住み慣れたしまった住 宅を変える困難 	意向の聴き取り
町づくり	町内会の再建 自宅被災者の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・行政や支援が届かな い 	行政・住民組 織・ボランティアの 協働

第4期 「すべての被災者」「地域の復興」を視野に

主要なテーマ	国・自治体	被災者	支援
住まいの再建の未定者が仮設の半数超	<ul style="list-style-type: none">・意向調査の徹底・必要戸数の確保・「入居無資格」者の現状把握	<ul style="list-style-type: none">・行政の実態把握の徹底を求める・被災者の要求をまとめる	<ul style="list-style-type: none">・被災者の悩みを個別に把握する体制支援
格差への対応	<ul style="list-style-type: none">・家賃の基準の是正・中間的「低家賃住宅」の提供・自立困難者への対応・生活保護など	<ul style="list-style-type: none">・会合などへの参加も少なく、声が届かない。	<ul style="list-style-type: none">・同上
地域社会の復興	<ul style="list-style-type: none">・『住民自治』の促進・「地域包括ケアシステム」	<ul style="list-style-type: none">・住民組織育てる・『住民自治』の経験が少なく、多くの町内会も弱体化。	<ul style="list-style-type: none">・住民組織への支援。行政・町内会・住民組織・支援団体の協働促進。

石巻・住まい連が当面めざす活動

すべての被災者が一日も早く、安定した
住まいを確保し、自らのくらしの再建と
地域社会への復帰に専心できる状況をつくる

仮設住宅での懇談会

石巻市の参加をもとめ、要望を出す住民



話し合う市と追波川多目的団地住民。

ここの住民が移転を予定している移転地は早くて29年度完成予定。これから3年以上の仮設生活が続く。

(2015.2. 17)



- ・換気扇が働いていない。カビがひどい。ダニがわく。
- ・小学生だった孫が高校生。部屋が狭くてかわいそう。部屋を増やして。
- ・玄関や廊下が腐っている。
- ・生きているうちに自宅に住みたい。

復興町づくりへの支援

住民協議会と災対連共催の

松並・緑町「**結祭り**」

へ支援活動(2015. 9.13)



この後開かれた住民の集会にはたくさんの住民が参加し、町づくりへの意欲が高まりました。

住まい連の行動計画

悩み・要求あるところに運動あり

—話し合いの場をより多く、より広く—

- ①仮設住宅での懇談会の開催
- ②復興住宅・集団移転地での懇談会の開催
- ③地域での懇談会の開催

要求を取りまとめ行政へ粘り強く働きかけよう！

最後

に

どうなる石巻の住まいの復興

生活再建意向調査

2015. 8.31現在

対象8918世帯

回答5116世帯(57%)

復興公営住宅	2,149
自宅建設	1,292
民間賃貸住宅	449
家族親戚宅	102
公営住宅	62
その他	88
小計	4,142
未決定	753
無回答	221
未回答	3,802
小計	4,776
合計	8,918

復興住宅建設数をはるかにう わまわる「未定」「無回答」「未回 答」数の実態

- ・復興住宅空き部屋数2900－希望世帯2000
＝900（入居率35%で推定）
- ・意向不明世帯＝5000（左の表）
- ・選択肢＝自立再建＋復興住宅＋一般公営住
宅＋民間賃貸住宅

◎これだけのキャパシティが石巻にあるか？

石巻は未だ仮設住宅貸与一律延長が続い
ているためこの数が多いと思われる。